

異例難聴

イビウーナ 竹内ひろむ

私は9年程前に風邪が難聴になりました。今まで「ふらつき」欄に書かなかつたけれど、今日は思い切って書いて書くことにしました。

想い出

イタジュバ 河合五十

私は毎日町を歩きまして、私は毎日町を歩きま

す。買物もします。家で

は、本や新聞を読んだり、植木や花に水かけを

したり、風呂も沸かすの

を受持つてゐる。そして

努めて明るく生きるよう

うことに気が向き、お互

いの青春が近づき、結婚

しました。その後、義父になつた

妻の父は、働き手を取られ、ブラジル生れの子供

人間は生活を保障して

てしましますね。次に小生の息子のこと

について。

妻の父は、盛大に繁昌し

借金ができる、につちも

り、日本に戻ると言いました。

彼は知り合いの家族が

日本に戻ると言いました。

彼は日本人の心の持ちようだ

と思う。今處に発表すること

は無などいけれど、要

い。皆さんは親の愛情の

有無などいけれど、要

い。皆さんは親の愛情の



小山さん



ボイチームの指導さん

青年隊員の知られざる貢献

最後に、山田清さんが手配した同州が誇る芸能「パンバ・メウ・ボイ」を踊るチーム「ボイ・デ・ルア」の舞踏が披露された。若者40人がバンドと踊り子に分かれ植民地時代に富を象徴した「牛」を中心に、インディオの魔術師役、カボクロ役、黒人奴隸役などするサンバは黒人文化の躍るものだ。伯国を代表する「マラニヨンでは

最後に、山田清さんが手配した同州が誇る芸能「パンバ・メウ・ボイ」を踊るチーム「ボイ・デ・ルア」の舞踏が披露された。若者40人がバンドと踊り子に分かれ植民地時代に富を象徴した「牛」を中心に、インディオの魔術師役、カボクロ役、黒人奴隸役などするサンバは黒人文化の躍るものだ。伯国を代表する「マラニヨンでは

手前の獅子舞のようなものがボイ。左がカボクロ。

「ボイ・デ・ルア」の踊り

第12回

2012年11月24日

ニッケイ新聞

